

ASEAN 人材育成奨学パートナーズ支援（AHEAD50）
ASEAN 事務局 金融及び社会経済課題分析・モニタリング課
職員 招へいの記録（短期招へい第 6 陣）

1. プログラム概要

【目的・概要】

ASEAN 事務局の金融及び社会経済課題分析・モニタリング課から 4 名の職員が、7 月 5 日から 11 日にかけて訪日しました。

今回の訪問では、持続可能性に関わる諸課題、特にカーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ブルーエコノミーなど、近年急速に重要性が高まっているグリーントランジション関連分野をテーマに、日本及び在京国際機関の先進的な政策・取り組み、民間セクターの事例について理解を深めるとともに、関係者との意見交換を通じて参加者の専門的知見の向上を図ることを主要な目的としました。

参加者は、持続可能性に関する様々な課題について実践的なアプローチを探求し、気候変動対策、持続可能な資源管理、グリーントランジションを支える新たな政策及び金融の枠組みに関する理解を深めました。また、カーボン市場、サステナブルファイナンス、ESG データガバナンス、サーキュラーエコノミーの実践、多様なステークホルダーとの連携による持続可能な開発といった戦略的テーマについても議論を行いました。

これらの活動を通じて、参加者は金融とグリーントランジションの接点に位置する重要課題への理解を深めることができました。本プログラムで得られた知識や知見は、ASEAN 域内における金融統合の分析及びモニタリングを担う職員の業務を、より効果的に支援することが期待されます。

【AHEAD50】

AHEAD50（ASEAN Human Educational Development Scholarship Partners）は、2023 年の日本 ASEAN 友好協力 50 周年を契機に開始した招へい事業。ASEAN 事務局等の有望な職員に対し、日本の政策・制度・立場等につき学ぶ機会を提供し、人材育成を通じて ASEAN 事務局の強化を図るとともに、日本との円滑な協力を促進することを目的としている。

【参加者】ASEAN 事務局 金融及び社会経済課題分析・モニタリング課（AMFSED : Analysis and Monitoring on Finance and Socio-Economic Development Division）職員 4 名
（課長級 1 名、上級職員 1 名、職員 2 名）

【訪問地】東京都、兵庫県

【日程】

■ 招へいプログラム：

2026 年 7 月 5 日（日曜日）～2026 年 7 月 11 日（土曜日）6 泊 7 日

7 月 5 日（日曜日） 羽田空港より入国

7 月 6 日（月曜日） 【意見交換】国際通貨基金（IMF）アジア太平洋地域事務所（OAP）
長岡 隆 所長
チャド・スタインバーグ 所長代理 兼 アジア太平洋局 次長
アンネ・オーキン 所長補佐
寺井 浩介 広報官

	【意見交換】アジア開発銀行研究所（ADB） 白井 さゆり ADBI フェロー（慶應義塾大学 総合政策学部 教授） 【講義・意見交換】一般社団法人環境金融研究機構（RIEF） 「環境・サステナブルファイナンスの主要論点」 講師：藤井 良広 代表理事
7月7日（火曜日）	【講義・意見交換】東京大学未来ビジョン研究センター 「未来ビジョン研究センター概要及び気候政策及びエネルギーシステムのモデリング」 講師：杉山 昌広 教授 【意見交換】サステナブル・ラボ株式会社 高橋 浩太郎 執行役員 兼 COO 平瀬 錬司 代表取締役 CEO 東京都から兵庫県へ移動
7月8日（水曜日）	【視察】パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社 【文化体験】茶道体験 【講義・意見交換】地球環境戦略研究機関（IGES）関西研究センター 「Synergy アプローチの地域実装に向けて」 講師：田中 勇伍 シニアリサーチマネージャー／レンズ・ファシリテーター
7月9日（木曜日）	【視察】姫路城 兵庫県から東京都へ移動
7月10日（金曜日）	【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成） 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
7月11日（土曜日）	羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム

	
7月6日【意見交換】国際通貨基金（IMF） アジア太平洋地域事務所（OAP）	7月6日【意見交換】 アジア開発銀行研究所（ADB）



7月6日【講義・意見交換】
一般社団法人環境金融研究機構（RIEF）



7月7日【講義・意見交換】
東京大学未来ビジョン研究センター



7月7日【意見交換】
サステナブル・ラボ株式会社



7月8日【視察】パナソニック エコテクノロジー
センター株式会社



7月8日【文化体験】茶道体験



7月8日【講義・意見交換】地球環境戦略研究機
関（IGES）関西研究センター



7月9日【視察】姫路城



7月10日【報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

- **国際通貨基金（IMF）アジア太平洋地域事務所（OAP）**

非常に有益であり、IMF がどのようにデータを収集し、金融分析や政策提言を行っているかについて理解を深めることができました。IMF は、ASEAN のマクロ経済監視において従来から連携してきた機関ではありませんが、本会合を通じて AMFSED として新たな協力の可能性を見出すことができました。自らの業務を紹介するとともに、IMF 地域事務所の任務や活動範囲について学ぶことができ、将来的な連携の糸口を得る上でも大変有意義な機会となりました。

- **アジア開発銀行研究所（ADB I）**

ASEAN と日本が直面するサステナブルファイナンスの共通課題を明確にするとともに、日本の経験に基づく多くの知見を得ることができた大変有益な機会となりました。会合では、ASEAN と日本における高齢化のリスクとその経済的影響、政策対応、さらにはサステナブルファイナンスの推進に向けた取り組みについて包括的な議論が行われ、参加者一同、理解を深めることができました。

また、ADB I が今後実施予定の研修コースに関する情報も共有され、特にカーボン市場に関する知識向上に資する内容であると認識しました。これらの議論を通じて、ASEAN における政策形成や能力強化に向けた新たな示唆を得ることができました。

- **一般社団法人環境金融研究機構（RIEF）**

サステナブルファイナンスの潜在性とリスクに関する重要な意見交換が行われました。また、グローバル、地域、各国レベルにおけるカーボン市場制度について知見を共有することができました。

- **東京大学未来ビジョン研究センター**

JMIP（持続可能な未来のための日本モデル相互比較プラットフォーム）による IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第 7 次評価報告書（AR7）への貢献、気候政策評価、太陽光パネルや EV バッテリー廃棄物の循環性に関する課題などについて貴重な知見を得ることができました。革新や政策実装を促す「修理する権利（Right to Repair）」などの制度に関する議論も、ASEAN における資源循環や持続可能な脱炭素化の検討にとって極めて有益でした。「修理する権利」とは、消費者や事業者が自らの所有する製品を自由に修理できるようにする権利を指し、メーカー側の過度な制限によって修理が困難になる状況を改善するための政策的アプローチです。国際的には、持続可能な資源循環や廃棄物削減を促す観点から議論が進展しており、循環型社会の構築に向けた重要な要素として位置づけられています。

- **サステナブル・ラボ株式会社**

日本の ESG（Environmental, Social and Governance：環境・社会・ガバナンス）データエコシステム、標準化・相互運用性・ガバナンスのアプローチについて深い洞察を得ることができました。マルチステークホルダー協働や AI を活用したデータ管理の役割に関する知見の共有は、ASEAN が進めるカーボンニュートラルや持続可能な開発の取り組みにとって大変参考となりました。

- **パナソニック エコテクノロジーセンター株式会社**

非常に示唆に富む視察であり、リサイクル工程には政策担当者、企業、従業員、地域社会など多様なステークホルダーの参画が不可欠であることを学びました。それぞれの主体が効果的かつ持続可能なりサイクルを実現する上で重要な役割を担っていることを理解することができました。

また、リサイクルを超えて、循環型社会の概念（リデュース、リユース、リペア、リサイクルを通じ

て資源や製品を可能な限り長く活用する考え方）についても紹介いただきました。このアプローチは廃棄物削減、資源保全、持続可能な未来の構築に寄与するものです。

● 地球環境戦略研究機関（IGES）関西研究センター

政策担当者、研究者、自治体、企業、地域社会が連携し、グローバルな持続可能性目標とローカルな実装を結びつける IGES の「Synergy」アプローチについて貴重な知見を得ることができました。マルチステークホルダー・パートナーシップが統合的かつ効果的な持続可能性アクションを支えることへの理解が深まりました。

アジア太平洋 Synergy レポートの紹介では、地域の SDGs 達成状況や、取り組み加速の重要性が示されました。agrivoltaics（農業×太陽光発電）などの地方自治体による脱炭素化の具体例は、各地域の文脈に応じた持続可能な解決策の実装に関する有益な示唆を提供するものでした。

4. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

Reporting Session Japan Programme for Officials from the ASEAN Secretariat: Analysis and Monitoring on Finance and Socio-Economic Division (AMFSED) AHEAD50 Mission #6  IGES Headquarters, Tokyo 10 July 2024	Major Takeaways - The IMF is aligned with climate goals and recognizes the need to address climate risk and reduce its carbon footprint with ASEAN, supporting regional economic development, while also recognizing regional disparities in climate resilience. - Publicly funded research for policy development is a key role of AMFSED, and the mission is a good opportunity to collaborate with ASEAN by sharing the latest research in climate risk and capacity building programs. - IGES provided insights into the close relationship and joint work in the green transition, highlighting shared challenges that require cross-country cooperation for ASEAN. IGES IGES is a research institute for sustainable development, established in 1992. It is a non-profit organization, and its mission is to promote sustainable development through research, education, and policy development. IGES is a member of the United Nations University (UNU) system, and it is also a member of the International Science Council (ISC).	Action Plans to Enhance Productivity and Efficiency Strategic Level: AMFSED will strive to adopt and apply the best practices gained from this fruitful AHEAD50 program in areas within our purview, particularly in supporting the implementation of ASEAN SDGs, Our Shared Future and the AEC Strategic Plan 2025-2030. Operational Level: With the support in technical expertise, economic surveillance insights, policy research, and capacity building support offered by our peers such as the IMF and ADB, AMFSED intends to strengthen its data-based policymaking, improve analytical capabilities, and further the development of more targeted and effective initiatives in support of ASEAN's economic and sustainable development priorities. Policymaking Level: The deep-dive sustainability discussions with IGES, the Institute for Future Initiatives, Sustainable Law, PETEC, and IGES will provide valuable insights to support the design and implementation of key ASEAN sustainability initiatives, including the ASEAN Strategy for Carbon Neutrality, the Framework for Circular Economy, and the ASEAN Blue Economy Framework.
--	---	--

【成果の発表】

◆ プログラムの主な成果

国際通貨基金（IMF）アジア太平洋地域事務所（OAP）、アジア開発銀行研究所（ADB）、東京大学をはじめとする各訪問先において、環境や金融に関する有意義な意見交換を行うことができました。

これらの訪問を通じて、関係者とのネットワークを構築するとともに、新たな視点やアイデアを得ることができました。また、今後の政策課題や、日本における関連法制度及び先進事例に関する知見を深める有益な機会となりました。

◆ 主な学び

パナソニック エコテクノロジーセンターのリサイクル工場視察では、ASEAN 諸国におけるサーキュラーエコノミーの推進に資する多くの示唆を得ることができました。

また、サステナブル・ラボ株式会社への訪問を通じて、資金調達や持続可能な事業運営を進める上で、ESG データの分析・評価が重要な役割を果たしていることを理解しました。

さらに、本プログラムを通じて、ASEAN と日本がそれぞれの強みや経験を活かしながら相互に学び合い、協力を深めることができることを再認識しました。

【アクション・プラン】

「チーム及び組織の効率向上に向けたアクション・プラン」

本プログラムで得られた知見やベストプラクティスについては、ASEAN が策定する各種計画や取組に反映していくことを検討します。

また、IMF や ADBI をはじめとする関係機関との連携を活用しながら、経済発展及び持続可能な開発に向けた優先課題に取り組むとともに、政策立案能力の強化を図ります。

さらに、今回訪問した各機関との対話を継続・発展させることで、ASEANにおける環境関連戦略や枠組みの設計及び実施の改善につなげていきます。

【プログラム改善に向けた提言】

本プログラムを通じて、専門的知見の向上に加え、関係者とのネットワーク構築を進めることができました。これらは今後の協働に向けた重要な基盤となるものと考えています。

プログラム終了後も、フォローアップの意見交換や継続的な交流の機会が提供されることを期待します。

また、大変有意義なプログラムではありましたが、より多くの時間が確保できれば、学術的なテーマについてさらに深い議論を行うことができたと考えます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）